青少年育成センターだより

第１０３号　２０２１．１．１５

防府市教育委員会生涯学習課
青少年育成センター
０８３５－２３－３０１３

「ひとというものは、ひとのために、何かしてあげるために生まれてきたのです」

（宮沢賢治の母・いち）

宮沢賢治の本を読まれた方も多いでしょう。賢治は、たくさんの作品を残していますが、優しく心温まる作品が多いように思います。そのような作品が書けたのは、このようなお母さんの言葉を日々聞いていたからなのでしょう。

心を寄せる（２）

みなさん、ＵＮＣＨＲ（**国連難民高等弁務官事務所**）という組織をご存知でしょうか？

ＵＮＣＨＲとは・・・１９５０年に設立された国連の難民援助機関です。世界１３０か国で、紛争等により家を追われた人々の保護・支援に尽力しており、これまで２度ノーベル平和賞を受賞しています。

その、ＵＮＣＨＲの広報誌に、次のような記事が載っていました。

ヨルダンの難民キャンプで私たち職員を迎えてくれたのは、２歳の男の子を抱いたジーナ（３３歳）。妊娠８か月の母親でした。シリアの自宅は爆撃で破壊され、ヨルダンへ避難してきました。２～１３歳までの６人の子を抱える一家。家から持ってきたのは、一人につき２枚の服だけでした。１１月の難民キャンプはすでに凍えるような寒さで、立っていると震えが止まらないほどでした。一家は、当初は布のテントに住んでいて、暖房器具もなく本当に寒かったと話します。「テントで暖房もなくて、どうやって温かくしていたのですか？」そう尋ねると、穏やかに話していたジーナの表情がみるみる曇りました。「ただ家族で抱き合って、温めるしかありませんでした。」ジーナはそう言って黙りこみ、涙ぐんでしまったのです。母親としてどれだけつらい思いをしたのか、痛いほど伝わった瞬間でした。・・・

この記事を読まれて、みなさんはどのような思いをもたれたでしょうか。

これまで、このセンターだよりでは、「国境なき医師団」（第９３号）や「ユニセフ」（第９７号）の取組について紹介してきました。今、世界には貧困や国際紛争等により難民となったり、また、新型コロナにより生きにくくなっている多くの人たちがいます。

私たちは、世界にはそのような厳しい生活を強いられている人がいること、また、それを支えている人たちがいることを知り、その人たちに**心を寄せる**ことが大切だと思います。そんな温かい心をもった子どもたちが、将来、国際的に活躍したり、地域に生きて他の住民と協力できたりと、心豊かな生活を送れる人になるのではないでしょうか。

今、日本では、新型コロナの影響で生活が行き詰り、心がすさんでしまった人が増えたからでしょうか、テレビや新聞などの報道で、不正や犯罪等の事件をよく聞きます。このような報道を耳にすると本当に心が痛みます。私と同じ思いをもたれる人も多いのではないでしょうか。

コロナ禍の中、生活に困っている人たちがたくさんいます。このような時にこそ、日本人が本来持っている「**惻隠の情**」を発揮して、お互いに助け合うことが大切なのではないでしょうか。大人が思いやりをもち、助け合う姿を見せることが、子どもが心豊かに生きることにつながるのだと思います。

（文責＝青少年育成センター指導員　藤村）